

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2171200302
法人名	特定非営利活動法人ソーシャル・ネットワーク
事業所名	グループホーム ぬくもりの里かもの
訪問調査日	平成 20 年 2 月 21 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 13 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2171200302
法人名	特定非営利活動法人 ソーシャル・ネットワーク
事業所名	グループホーム めくもりの里かもの
所在地	美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地 (電話) 0574-23-2015

評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会		
所在地	503-0892 岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成20年2月21日	評価確定日	平成20年5月13日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年	2月	6日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	7 人	常勤	5人, 非常勤	2人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	平屋建て鉄骨造り階 ~ 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	2,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無 2ヶ月後全額償却
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84.6歳	最低	76歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	堀部医院、太田病院、関中央病院、かもの歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

入居前生活歴を良く知る為、在宅時の介護支援専門員と連絡をとり、その人の入居時の混乱を避ける為、入居2~3ヶ月は家族の訪問を密にさせていただき等、きめこまやかな支援がなされている。また家族へ担当を決め毎月その人のくらしぶりを自筆で書き送っている。他ホームとの交流を通じ、さらなるケアの向上を願い努力しているホームである。管理者、職員は理念のもと声かけを大切に、個別に朝の挨拶をかわし入居者とのコミュニケーションがとれている。入居者の個性や希望に沿った暮らしの支援がなされている。地域との連携は努力され年月の重なりと共に地域密着型の特質が活かされる努力が期待出来る。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点で緊急時の職員不足に対する努力目標が掲げられていたが、現在は採用されゆとりも出来ている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価の意義を全職員が理解し、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果はミーティングで報告され改善に向けて具体案の検討や実践につなげる用意がある。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議を定期的に行い、利用者やサービスの現状、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行いサービスの質の向上に活かしている。運営委員からの多様な協力もされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	家族には、手紙や訪問時家族会で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見要望等は、ミーティングで話し合い反映させている。苦情の窓口は施設内にはあるが、外部機関への連絡方法の案内はまだない。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の夏祭り、中学校体育祭等招待され出かけている。保育園児の慰問等の交流をしている。大学生のボランティアがある。利用者と地域との日常的な連携はまだない。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に地域への貢献を掲げ、地域との交流を目指した理念を作っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全員が理念をミーティング時に話し合い、共有し日々の生活の中での言葉かけに現し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の中学・大学・保育園などと交流を行い、ボランティアの訪問がある。自治会には準会員としての参加なので地域の一員としての役割までは行っていない。		訪問は受けているが、地域との連携の意味・大切さを理解して交流をさらに深め、地域の一員として役割を担っていくまでの交流を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員が評価の意義を理解し、今回の自己評価に皆で取り組んだ。前回の評価の改善を行ったが、周辺地域との相互理解、協力がまだ十分な取り組みがなされていない。		周辺地域との相互理解や協働に更なる取り組みを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に家族、自治会長、民生委員、市職員等の参加を得て2ヶ月に1回開催し、評価の結果を報告したり、ホームの行事や報告をし、意見を交換している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村全体の事業所空き情報を市から発信していただくように伝えたり、いろいろな要望を伝え市と連携を計っている。		事業所からの連携のみならず、市町村も共に積極的に取り組んで欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人一人に担当者が決めてあり、健康状態や暮らしぶりを管理者が手書きで細かく記載し家族に送っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月送る家族への手紙の中に、意見を聞かせていただきたいと伝えている。また利用開始時には契約書の中に苦情窓口の記載がある事を伝え、家族訪問時にはそのつど意見を聞き、運営に反映しようとしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員がホームに来た時は、管理者が利用者との間に入りコミュニケーションを多く取れるようにし、利用者との関係作りを心がけている。又普段からユニット間で職員や利用者が行き来し馴染みの関係が作られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は1ヵ月後に、資格研修については費用はホーム側が手当てをつけている。研修後はホームの皆に報告し、研修内容を周知徹底しケアの向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他地域の同業者と職員交流し、日々の疑問を話し合ったり情報交換してケアの質を向上しようと取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	在宅時の介護支援専門員と連携し生活歴を知り、馴染めるような環境を出来るだけ整えている。利用に当たってはお試し期間を設けその期間中は家族の訪問回数を多くしてもらい馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	夜勤帯の落ち着いた時間に、本人の訴える体の機能への喪失感や、死への戸惑い等を自分の事として一緒に考え共感し話を聞いている。職員が初めて子供を持った時等、人生の先輩としての忠告や心構えを教えている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	話しかける機会を多く持ち希望を聞いている。又その人の個性に合わせて聞く方法を変え把握に努めている。困難な人には顔や、態度で判断している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	家族から聞いたり、月1回の全員参加ミーティング時に時間を超過するほど活発に話し合いが行われ介護計画が介護支援専門員によって作られている。職員のアイディアによるベッド上の運動などが反映された計画が作成されている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月に1回見直しが行われモニタリングとして記載し、次の計画が作成されている。急な変化があった時は、口頭や申し送りノートや業務日誌に書き、家族に連絡し介護支援専門員が新しい計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	足の痛みを訴える方を接骨院へ連れて行ったり、誕生日にその人の欲しい買物を一緒に行ったりして、特別の外出支援をしている。(一人一人の性格をつかんで話しかけもその方に合った工夫をしている。)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医受診の支援をしている。かかりつけ医とホームの往診医との連絡をとり、投薬の重なりをチェックをしている。また、受診結果を家族と連絡をとり、医療連携をとっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状等の報告は、家族へ毎月の手紙でなされている。これまでは、重度化や終末期の状況がなかった。		重度化や終末期はこれから想定されるので、本人や家族等かかりつけ医等と繰り返し話し合いをもたれ具体的な方針を全員で共有されることを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング等を行う時は、事務室で行い本人に聞かれないように配慮している。プライバシーの確保の為、例えばトイレ使用中であっても戸を閉めない人への配慮として、カーテンを引くなど随所に工夫が見られる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「今日は何をしようか」との問いかけを毎朝して、要望を受けとめ出来る限り実践している。何もしたくないの日もあり本人の意思を尊重しているが、声かけは怠らない。1泊2日の旅の実践もあり、カラオケをしたことがなかった人への参加をうながし、本人の楽しみとなった為、家族から驚きや喜びの声がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は各人の好みや力に合わせてきざみ、とろみ食にしたり、糖尿病の方には主食を減らす等の工夫がなされている。盛りつけを手伝ってもらったり、おやつ作りを一緒にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	洗濯物の乾燥に時間がかかるので、入浴は午前中にしている。しかし毎日入浴希望の人には支援し、今の所必要な人はいないが、同性介助を希望する人には支援できる体制がある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ等コミュニケーションも大事にされている。お茶をたてたり、エレクtoon演奏をしたり車椅子の人は座っていただいて、食事の盆拭きをしてもらう、家族の方も気付かなかった、本人のカラオケを楽しみにしてみえる。気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外の寒さも体験し、散歩に犬も、連れて行く、というような、希望に添った外出支援をしている、外出嫌いな人も上手に声かけして外出していただいている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外部からの侵入者を防ぐため、鍵をかけている。		鍵をかける事の弊害をもう一度皆で話し合い、鍵をかけない工夫を期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防省の指導を受け非難訓練をしている。指導のもとスロープもつけ改善し運営委員会でも活かしている。		町内会、公的機関との連絡網は未だない、非常時近隣との情報は大切なので、更なる取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を満たす人がほとんどで、食事中も声掛けがよくされていた。バランスのよい食事が提供されいて。お茶は自由にのめる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ドアを閉めない人のためにカ - テン等工夫され、利用し易くなっている。大きなガラス戸から、田園風景が楽しめ、季節を感じ、食堂は憩いの場でもあり、雑がざりもされ、家庭的である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望にまかせ、掛け軸を掛けたり、畳をいれ座机の上には本や置物等があつた、部屋でエレクトーンを弾く音まで気にすることなく楽しむなど、利用者の生活感がうかがわれた。		